





令和7年度 とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

 項目	 内容
 テーマ	リトミック
 テーマの設定理由	<p>本園では、リトミック講師による活動を定期的に行っている。子どもたちはピアノの音や音楽に触れる中で、それぞれの感じ方に合わせた多様な身体表現を見せ、音と関わることを楽しんでいる様子がうかがえる。</p> <p>こうした姿から、子ども一人ひとりが音をどのように捉え、どのように表現しているのかに着目することが、興味や関心に寄り添った保育の展開につながると考えた。そこで、音に対する感じ方や表現の違いを丁寧に捉えながら、子どもの内面の動きを理解し、それを日々の保育に生かしていくことを目的として、本テーマを設定した。</p>

3. 活動スケジュール

主活動

6月 拍・リズム
7月 基礎のリズム
9月 拍・空間
10月 基礎のリズム
11月 拍・手指を動かす
12月 基礎のリズム
1月 拍・リズム
2月 基礎のリズム
3月 拍・タイミング基礎のリズム + ギャロップ

活動内容

動物模倣
跳ねる動きと遅い動き
大小の動き
様々な動き方
音の高低
既成曲での動き
リズムパターン
テンポの変化
合奏

4. 探究活動の実践

- ・ 活動を積み重ねる中で、音の強弱や速さの変化に合わせて動きを工夫する姿や、楽器の扱い方を友だち同士で伝え合う様子が見られるようになり、子ども同士の関わりが深まっていった。
- ・ これらの活動を支えるため、カスタネットや鈴、タンバリンなどの楽器はリトミック講師と連携して準備し、安全の配慮には所々にマットを敷くなど、環境を整えた。
- ・ 楽器の扱いについては、子ども一人ひとりの理解に応じて持ち方や鳴らし方を伝え、実際に一緒に試しながら習得できるよう関わった。
- ・ さらに、二人組での活動においては、子ども同士の関係づくりが円滑に進むよう保育者が仲立ちとなり、ペアの形成ややり取りを支える援助を行った。

5. 振り返り

- ・ 開始当初は講師の模倣が中心であったが、活動を重ねるにつれて自分のイメージをもって動きを工夫し、音の変化に合わせて主体的に表現する子どもの姿が見られ、経験の積み重ねが主体的な表現につながることを実感した。
- ・ 活動を繰り返すことで動きや楽器の扱いに慣れ、自信をもって楽しむ姿が増え、繰り返しの経験が意欲や表現の広がりを促すことに気づいた。
- ・ 友だち同士で楽器の扱い方を伝え合ったり、自然に二人組を作ったりする姿が見られ、活動の積み重ねにより、子ども同士の関わりが深まることを感じた。
- ・ 楽器の準備や安全に配慮した環境構成、また一人ひとりに応じた関わりや仲立ちを行うことにより、安心して活動に取り組む子どもたちの姿が見られ、環境構成や個に応じた援助の重要性を改めて実感した。
- ・ 今後は自由遊びの中でも楽器に触れられる機会を設けることで、より音やリズムに親しみ、主体的な表現がさらに広がるのではないかと感じた。

